

1. 水資源の環境

1-1 消費者の意識

日本には古来より水の利用に係わる諺がいろいろとあるが、最も端的に表現されたものとして「・・・を湯水のごとく使う・・・」は現在の我々にも浪費を意味する言葉として生きている。

従来より水は消費の対象として日本人の意識の中に、現実の事として水を浪費する習慣としてすら存在している。

1-2 共有財産から国有財産へ

本来水は人間が存在するためには絶対的なものでありすべての隣人達と平等に使う権利を持ち、その意味ではもちろん無料であった。

明治の中期ごろにより都市文化の向上・環境衛生の発達に伴う水使用量が急激に増加するに及んで都市型設備(ダム・貯水池・下水処理等)が行われているが、水の需要は増加の一途をたどり、ついには水不足が喧騒される昨今となった。

1-3 上下水道料金の値下げはない

都市近代化に伴う都市人口集中、それについて水需要は上限を知らず、行政設備はそれに追いつけずその費用は増大する一方である。

わが国ではその費用は全て私達の支払っている水道料金で賄われている。

全国的な平均では、3～4年毎に上水道か下水道の料金が、約30%値上げされている。

1-4 今や水も企業が管理する時代

各企業では日夜懸命な努力を続けて、合理化による経費節減(電気代、人件費、その他)がなされているが、最後に残されたのが、水道料金対策である。

1-5 社会還元

以上述べたように水のコスト削減システムの普及は水資源の保護・企業収益の向上に一助に、又、水の効率利用は地域的に大きな社会還元となる。